

千葉県青果商業協同組合連合会

会長 正司 進



【千葉県青果商業協連の沿革】

当連合会は昭和29年5月から20年近く任意組合として活動していたが、大型スーパーや生協の台頭で青果小売を巡る環境も大きく変化し、さらに、県下各地の公設卸売市場を中心に青果関係の組合が設立されたのを機に昭和46年4月に県下7つの協同組合により法人化された。

この間、連合会は相互扶助を基軸として組合運営研修会や地区研修会、千葉県大会の定期的な開催をはじめ、多彩な組合活動により、業界の発展と組合員の経済的地位の向上に大きな役割を果たしてきた。正司進会長は三橋政雄（市川）、石上正文（船橋）、植草善四郎（千葉）、綱島光雄（木更津）氏に続いて5代目の会長。

【松戸市青果物商業（協）の概要と正司さんの横顔】

戦後、松戸市には5つの小さな市



正司理事長（右）と山岸事務局長（左）

場があったが、松戸市の人口が急増するとともに従来の市場においては消費者のニーズを満たすには複数の市場を往復するような有様であった。そこで青果物の流通を効率化させる拠点として農林省の指導により市内八ヶ崎に公設市場が開設されることになり、それに伴って昭和43年4月に総勢65名で「代払い」を主たる事業とする松戸市青果物商業（協）が設立された。昭和46年には中央青果商業（協）と合併し組合員総数もピーク時には182名までになった。昭和48年には経済の広域化に対応するために地区を千葉県、東京都、埼玉県、茨城県と拡大し組合存立の

■ 千葉県青果商業（協連）

所在地	千葉市美浜区高浜 2-2-1 中央卸売市場内
代表者	正司 進
会員数	9名（出資金 80万円）

■ 松戸市青果物商業（協）

所在地	松戸市八ヶ崎 2-8-1
代表者	正司 進
会員数	65名（出資金 675万円）

基盤強化を図った。この間業界を取り巻く環境は厳しくなるばかりで、市場外流通の拡大や市場の再編や淘汰の波が押し寄せている。

正司氏は千葉県青果商業協同組合連合会会長、松戸市青果物商業協同組合理事長、全国青果物商業協同組合連合会副会長のほか松戸商工会議所や地元小金北商店会等の要職を務めている。

正司さんは昭和18年柏市生まれの63歳。お父さんは戦死し、お母さんも正司さんが6歳のときに亡くなられたので、その後親戚の家に引き取られた。

学校を卒業するとすぐに地元の食料品店に奉公に出された。10年間辛抱すれば店を持たしてもらえるところの約束だったが途中で飛び出し、24歳のときに知り合いの魚屋さんの縁で独力で店を出すことができた。現在は常磐線北小金駅北口前の「おっ

かさん食品館」の青果部門（株）北口ショッピF&V（フルーツ、アンド、ベジタブル）の社長である。

正司さんの趣味は旅行とのこと。月に1度や2度は奥さんと温泉巡りをしているそうだ。モットーは「誠実」。これからの抱負は、来年に県連で全青連全国大会を受けているので、それを成功させなければならぬということ、5年後には柏の市場が移転することになるので、松戸の組合もそちらに移転することになるのかどうか、その道筋をつけなければならないとのことでした。

ご家族は2人の娘さんと後継者の息子さんは既に独立し、奥さんと2人で流山市に在住。



▲昭和48年より毎年松戸市の福祉施設へ果物を送り続けている

松戸市公設地方卸売市場青果物部▶

